

有島記念館と歩む会

土香る会

会報 15号

2023年
3月31日発行

TSUCHI-KAORU-KAI NEWSLETTER VOL.15 March. 31st. 2023



■目次

| | |
|-------------------------------|----|
| □巻頭言：されど家事／土香る会会長 井上剛 | 2 |
| □二人の縊死心中を思うー有島武郎没後百年ー／事務局 梅田滋 | 3 |
| □活動報告と今後の予定（土香る会、有島記念館、有島謝恩会） | 4 |
| □特集：有島農場解放百年記念事業の状況（2） | 6 |
| □会の運営を話し合う／役員会議 | 6 |
| □交流広場：会員の想い・会員の声／枝元るみ、須崎文代 | 7 |
| □ラジオトーク・リマインド／国際交流員ホーリー シン | 10 |
| □編集後記 | 11 |

家事とは家庭の中で誰に割り当てられたのでもない仕事をすることではないか、という確信めいた思いが出来つつあります。苦手な料理以外の家事はあらまし私の出番です。私が家事をすることになったのは妻が体調を崩して回復が遅くなっているからです。裏を返せばそれまでは家事は妻任せであったのです。毎日しなければならぬことは若干の変動はあってもほぼ決まっています。それをこなしていくと、暮らすとはこういうことかと思ったりします。家事をすることに慣れるには時間がかかります。例をあげれば、初めのうちは夕食の直後に四人分の洗い物をするのが苦痛でした。お腹がくちくちくなって動けなかったのです。一日を通しての家事に慣れるのは月単位の

時間が必要でした。今は割と平気で、変われば変わるものです。

誰の仕事でもない仕事とは、逆に言えば、誰がしてもいい仕事のことです。それはどんな組織、団体、グループでも同じことが言える気がします。職場でもお客様にお茶を出す、会議の前に出席者用にコピーを取るなどは誰がしてもいい仕事に分類されますので、職場の家事と言えます。誰に割り当てられたのでもない仕事をする人がいるかいないかは、天と地ほどの違いを生むだろうと容易に想像できます。

では、家事をこなすのはお茶の子さいさいかと言うと、さにあらず。たかが家事、されど家事なのです。一日を通してどんな仕事があるかはある程度やれば見当が付くようになります。あれもこれもそうなのかと思に至ります。家事は多様なのです。日によって量の多少もあります。どんな順番で取り掛かるのかを

考えますが、一つずつ片付けていたのでは一日の持ち時間が足りません。時間帯を考えながら、二つ三つを並行して進めていくことも覚悟しなければなりません。ですからいざやってみると（しかも毎日）、様々な能力が必要であると気付きます。段取りと俗に言う全体把握能力や企画力、さらには実行力が鍛えられます。さらに特典があり、たとえ10分、20分であってもスキマ時間を捻り出し、自分がやりたいことをそこでやれるようになります。

そんな訳で、家事をすることは一日一日の勝負だなと感じます。寝る前にはやっと今日が終わったと思います。充実感や達成感がありますから損した気分にはなりません。唯一難点と言えるのは、この毎日が偽りなく毎日続く（盆も正月もない）ことで、それを考えるとめげなくもありません。私と同じように仕事を抱えていた妻に全面的に

押し付けていた無責任の深刻さを感じます。自分がやりたくない一心で何もしてこなかった我が家での性差別を考えると、穴に入りたい気分です。

最近新聞などでよく見かけますが、女性に多数参加してもらった商品開発や企画会議などが大成功しているようです。私の体験からも男性には家事を通して頭を柔軟にしてもらいたいと思います。誰がしてもいい家事なら男性がやってもいいわけで、それを女性に押し付けて性別役割分担だと主張するのは男性の詭弁、つまりじぶんの既得権益を守りたいだけの理屈に響きません。女性、子ども、高齢者、少数者が暮らし易い社会は男性にとつても住みよいと聞きます。決して逆ではありません。誰もが生き生きしているニセコ町は、あなたの家庭から始まる意識改革の果てにきつと見えて来るはずです。

二人の盛死心中に想う

—有島武郎没後百年—

事務局 梅田 滋

有島武郎と波多野秋子は、1923（大正12）年6月9日の未明、軽井沢の別荘浄月庵で縊死心中しました。丁度百年前のことです。

遺体が発見された7月6日以降、その衝撃は日本国内だけでなく、有島武郎の思想から影響を受けた韓国、中国の言論界にも及び、さらにはアメリカでも報道され、社会問題として大きな関心呼びました。

日本国内では、文壇や思想界、様々なコミュニティでこの心中が取り上げられ、背景や原因そして評価に至るまで、様々な追悼や言論が飛び交いました。それらの主要なものは、『有島武郎全集／別巻』に所収されていますが、延187人。同じ人が雑誌によって異なる追悼文を寄せているのもありますが、いず

れにしても多くの雑誌が追悼特集を組み、或いは批判の対象として心中した二人に関心を寄せた様子が窺えます。しかし、その追悼文のほとんどが、有島武郎の死に寄せられたものであり、波多野秋子に寄せた追悼文は9人にすぎません。

それらの追悼や意見、批判は様々な切り口からですが、注目しておきたいのは、心中した二人の尊厳に配慮し、死に赴いた本人たちの内面への衷心からの共感を表明した、周作人、木田金次郎、足助素一、この三人の言葉です。この言葉は、百年後の私たちが二人の死の意味について考える上でも、大きな指針であり続けています。

「如何なる由縁であろうが、すでに自らの命で自己の感情または思想に報いた以上、ある種の厳肅さがわれわれの口を塞いでいる。われわれはもとより生を弄ぶべきでないが、それが故に死を侮蔑してはならない」（周）

「それは善でもない。悪でもない。善悪を超えた絶対なものだ。だからその行為は、それはそのままでもいいではないか」（木田）

この二人の言葉は、様々な追悼文に対する足助素一の次の心底からの怒りと共通する、深い悲しみに彩られています。

「批評！ その人の平生を知らず、知っても深く知らず。その人の作物を読まず、読んでも深く読まず。而かもその人が死ぬるや否や我れ勝ちに、先きを争ってその人の、その死の批評を書く！ ・略・少しは己を顧みて、自己の軽薄に恥ぢるがい」（足助）

このような、世評への激しい批判を述べた足助は、武郎と秋子の生と死の尊厳を、二人それぞれと自らに対し静かに問いかける、次の言葉を残しています。

「僕は秋子を憎む。秋子が出なかつたら！ 生命を投げかけて恋ひ慕ふ秋子が出なかつたら！ そ

の絶望に点火する秋子が表れられ出なかつたら！

僕は秋子を讃へる。有島の底力は、有島を絶望から救ったであらう。「時」は必ず有島を救ったであらう。だが、秋子が表れなかつたら？ 生命を投げかけて恋ひ慕ふ秋子が表はれ出なかつたら？ 仮令百年の天寿を全うしても、あの「感激」あの「十全の満足」を有島は果して味ひ得たであらうか？ 秋子が出なかつたら！ その百歳の天寿の一刹那でも、有島は果してあれほどの「生き甲斐」を感じ得たであらうか。」（足助）

三人の言葉に、有島武郎と波多野秋子二人の死の最も深い意味が秘されていると感じます。

二人の没後百年の意味を、この言葉を噛み締めることで自身自身の魂にも問いかけたいと思います。その自答は、私自身の生きる軌跡の中に見出されるはずで。私は、それを探ります。

□土香る会の事業報告

(10月～3月)

1. 土香るラジオ文芸館

2022年度(下半期)

| 月 | 月間テーマ | ゲスト (インタビュー) | ゲストとの話題 |
|----|------------|-----------------|----------------|
| 10 | 有島記念館と芸術② | 寺嶋弘道② | 芸術における学芸員の役割② |
| 11 | 有島記念館と芸術③ | 寺嶋弘道③ | コラム記事「番茶の味」から① |
| 12 | 有島記念館と芸術④ | 寺嶋弘道④ | コラム記事「番茶の味」から② |
| 1 | 有島記念館と芸術⑤ | 寺嶋弘道⑤ | コラム記事「番茶の味」から③ |
| 2 | 有島武郎と岩内白水会 | 枝元るみ | 「白水会」の活動とその意義 |
| 3 | ラジオ文芸館の6年間 | 宮川博之 | 記憶に残る放送を振り返る |

2023年3月で、土香るラジオ文芸館は放送終了しました。

2. ホームページの更新

土香る会のホームページを、随時更新しました。

会の活動状況について、会員のみならず多くの人々と情報を共有するため、これまで継続的に展開してきた読書会の実施状況と発行媒体「読書感想文集」、土香るラジオ文芸館の活動状況に加えて、2022年が有島農場解放百年の記念年に当たることから、記念事業に関するコーナーを設置し、関連情報を随時掲載しました。(次項も参照のこと)

※キーワード「土香る会」で検索してください。

※URLは、次の通りです。

<https://tsuchiakaoru-kai.org>

3. 農場解放百年記念事業／2

有島武郎が農場を無償解放してから2022年が百年目に当たることを記念して、次の諸事業を行いました。既に実施終了したものや実施継続中のものも

含めて事業名のみを記します。

その具体的内容は、農場解放百年記念事業特集ページ(6ページ)に記しました。

また、詳細全体については、ホームページをご覧ください。

https://tsuchiakaoru-kai.org/mourning_event

ng_event

(1)アーカイブ事業

●「白水会記録会計」のデジタルアーカイブ化〜終了

●「狩太夜話」のデジタルアーカイブ化〜継続中

(2)「農場解放宣言」感想文公募〜終了

(3)記念講演会とトーク〜中止

□土香る会の事業予定

(4月～9月)

2023年度上半期に実施予定の主な事業は次の通りです。

- (1) 会報16号発行(9/30)
- (2) 読書会

昨年6月で一旦終了しましたが、その後の展開につ

いては検討中です。今後の再開が決まりましたら、改めてご案内いたします。

(3) 会員への情報提供

(4) 会員証の発行

(5) 有島武郎没後百年記念事業(事業の具体案は検討中)

□有島記念館の事業報告

(10月～3月)

○企画展

・第34回有島武郎青少年公募絵画展(10・22～11・6)



・冬から春の藤倉英幸展『田園散策』（1・7～4・16）

○普及事業

・館長講話／「芸術」の陰謀、

再び（10・1）

・Violin&Piano Duo 「秋の訪

れとともに」（11・5）



・館長講話2／「芸術」の陰謀、
再び『パндеミックの現在に』
（2・18）

・映画上映会（2・25）

・宮山登山会（3・4）

・映画上映会（3・4）

□有島記念館の行事予定

（4月～9月）

*行事予定はまだ決まっています。

日程等詳細が決まり次第、随時お知らせします。

□有島謝恩会の事業紹介

有島謝恩会は、有島灌漑溝と弥照神社の維持管理活動を行っています。

○有島灌漑溝の泥上げと草刈り

有島武郎と吉川銀之丞が大正10年に造成した灌漑溝は、現在も現役で水田に用水を供給しています。羊蹄山を水源地とする冷涼な水温を日照熱で温めるため、水路の傾斜を緩くして水がゆっくり流れるようにし、地形との高低差を所々に設けた斜段で調整する機能を維持するため、毎年、有島謝恩会と水利組合は地域の人々に参加を呼びかけ、延長4キロメートルを超える灌漑溝の全線で、5月に泥上げ、6月に草刈りを行っています。

大正10年以降、有島農場時代から共生農団そして農団解散以降へと続く長い歴史の中で継続してきた営農施設管理作業ですが、農家の高齢化と後継者難に



よる離農傾向が続き、農家だけでは維持が難しくなってきました。

しかし近年は、有島地区の新住民からも参加する人が増え、また、地域外の有志による作業への参加も見られ、有島地区の営農施設の維持だけでなく、旧

有島農場の原風景の維持にも結びついています。

○弥照神社のおまつり

有島武郎が大正11年に農場の無償解放を告げた場所弥照神社は、有島謝恩会が春と秋に例大祭を行っています。また、元日には、誰でも初詣ができますよう社殿を開放しています。例大祭の参拝や直会（なおりい）には、地域外からの参加も可能でしたが、最近の新型コロナウイルス感染防止の観点から、直会は中止されており、地域外からの参加も一定の制限がなされています。



【特集】有島農場解放百年 記念事業の状況／2

1 『狩太夜話』のデジタルアーカイブ化…

昭和29年狩太小学校の社会科学研究部教諭の斉藤修二が郷土史編纂資料として著述した『狩太夜話』全八輯が、有島記念館に保管されてきました。土香る会会員がそのレプリカと数年前に出会って以降、機会を見てその資料をテキストデータ化したといと考えていました。

その『狩太夜話』は吉川銀之丞からの聞き書きなど貴重な第一次資料であることから、農場解放百年を記念する事業の一つと位置づけ、記念館の了解を得て、土香る会の会員数名が手分けして判読しテキストデータに打ち込む作業を続けてきました。第一輯を3月末に編集発行し、土香る会のホームページに公表しました。

第二輯以降についても、今年

度以降順次発行する予定です。

2 書籍出版事業

有島武郎の作品からのミニ選集文庫本を出版するため、第一集の編集を継続しています。発行日は未確定ですが、2023年内の発行を目指します。

第一集は、有島武郎の作品の中から「翻案」作品三点を選び、それぞれの原作となる海外の作品の翻訳と一緒に所収し、有島が原作のどこをどのように改作したのか読み比べながら、有島の表現意図を考えることができるとしています。

所収作品とその原作は、次の通りです。

1 『燕と王子』有島武郎
『幸福な王子』オスカー・ワイルド

2 『小さい夢』有島武郎
『小さい夢』ゴールズワージー

3 『ドモ又の死』有島武郎
『彼の生死は？』マーク・ト

ウェイン

会の運営を話し合う

■役員会議

● 11／15（火）10：00～11：30
・文庫本出版に向けた制作の作業分担等について

・「狩太夜話」アーカイブ化作業の進行状況について

・読書会の再開に向けた検討
・有島武郎没後百年に向けた取り組みについて

・新事務局の構築に向けて
● 1／10（火）10：00～12：00

・文庫本出版に向けた制作の作業分担等について

・「狩太夜話」アーカイブ化作業の進行状況について

・読書会の再開に向けた検討
・「会報」15号の企画方針について

・有島武郎没後百年に向けた取り組みについて

・新事務局の構築に向けて
● 2／7（火）10：00～12：00

・文庫本出版に向けた制作の進行状況について

・「狩太夜話」アーカイブ化作業の進行状況について

・読書会の再開に向けた検討
・「会報」15号の企画方針について

・有島武郎没後百年に向けた取り組みについて

・新事務局の構築に向けて
● 2／27（月）10：00～12：00

・文庫本出版に向けた制作の進行状況について

・「狩太夜話」アーカイブ化作業の進行状況について

・会員証の発行について

※有島武郎没後百年記念事業に向けた案について

役員会議では、2023年から、有島武郎没後百年にあたることから、記念事業を企画中です。

会員の皆さまから、「このような事業をしてはどうか」というアイデアがありましたら、お寄せください。検討を進めたいと思います。

土地柄の恩恵―岩内白水会について

岩内町郷土館職員 枝元るみ

岩内町郷土館には、大正期の岩内に生まれた『白水会』という青年団体が、有島武郎などのように深く関わっていたのか、また有島の死を越え、どのような文化活動を岩内で繰り広げたのかを記録した『白水会 記録會計』という資料があります。土香る会さんと当郷土館のHP上にて公開しています。

この『白水会 記録會計』の中で、私が最も興味深かったのは、有島武郎の講演会が、岩内町にて大正11年7月（有島農場解放宣言の前々日）に開催されたのですが、その翌日、町内の小学生を一堂に集め、子供たちのために、当時の一流文学者有島先生の講演会が開かれたこと

です。

この時のことを有島は『有島武郎日記』の中で、「子供たちに話しかけている間、涙が出て止まらなかった」と書かれています。ですが、感涙極まるにいたるまで、一体どんなお話をされたのか？ 当時の子供たちは、どのような思いで有島先生のお話を聞いたのか？

また白水会は、大正13年に「憲政の神様」とも呼ばれる著名な代議士、尾崎行雄を講演会のため岩内に招聘しています。そしてこの髭面で眼光炯炯、かくしゃくとした尾崎峯堂先生も、岩内の小学校児童達のために、翌日講演をされています。一体どんなお顔で（笑顔？）、どんなお話をされたのでしょうか？

大正デモクラシーの時代、「白水会」は画家木田金次郎や郷土史家佐藤彌十郎らを中心として、大学教授や政治家の講演会、選挙啓蒙運動、音楽会など、様々な文化的活動を展開しましたが、

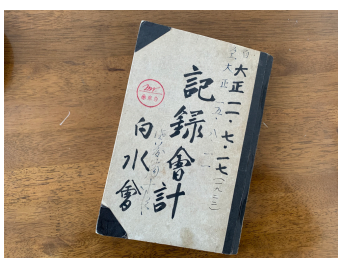
当時、それを受け取る「岩内人」にもその素養があったのだろう、と思います。『記録會計』の末尾に記されている会員（協賛者）の肩書きも、農、漁、商家、銀行、医師、お寺さん：分け隔てなく町中あらゆる業種の人々です。

北大予科弁論部の弁論大会が開かれた時には、後日の参加者の手紙に「会場の中に女性の姿が数多見られる事」に、これまで例がない、驚嘆したとあります。他の町なら、弁論大会などという堅い場所に、女性は少ない時代だったのでしよう。岩内では子供や女性が、時流の中で大人や男性と対等に、高い文化を享受していたということが、そんな町の空気を感じられます。歴史を知れば知るほど、岩内という町は面白いところですよ。

会の活動記録は大正末期に中絶、大戦争の時代を経て、昭和37年木田金次郎が逝去、その七回忌追悼絵画展の開催（昭和

43）が「白水会」活動の最後の記録となっています。木田と有島の縁に始まり、木田で終わつたともいえる「白水会」ですが、文化を希求するその思いが現代にも岩内に息づいている事は、美術を志す若者達の姿や木田金次郎美術館の活動、文化団体の活躍にも表れています。「土地柄の恩恵」ともいえる歴史を後世に伝えなくては。岩内町郷土館は、その役割を今後も果たしていきたいと考えています。

昨年の『白水会 記録會計』のテキスト版発行では、翻刻、編集に土香る会の皆様の多大なご尽力を頂き、有島と岩内を繋ぐ貴重な歴史が永く残されることになりました。改めて心より感謝申し上げます。



近代における生活共同体の 探求―セツルメントハウス を中心として―

須崎文代

(神奈川大学建築学部・日本

常民文化研究所 准教授)

筆者は「都市未来研究会」NISEKO」という有志のプロボノ活動で、ニセコの人々や本会事務局の梅田氏と交流する機会をいただいた。言わずもがな、ニセコには有島武郎の思想がいまも息づく、相互扶助の意識が強く残る地域であり、筆者が専門とする生活史・住宅史の立場からみても大変興味深い文化を有した土地であることが実際訪れて感じられた。

というのも、筆者が近年取り組んでいる研究のひとつとして、近代におけるセツルメントハウスの展開というテーマがある。セツルメントハウスとは、イギリス・ロンドンでバーネット夫妻により設立されたトインビ

ー・ホール(1884年)を嚆矢として、各地で実践された貧民救済や労働者の生活改善のための運動とその施設を指す。これを発端にイギリスではオックスフォードやケンブリッジといった大学セツルメント等が発達し、アメリカではジェーン・アダムスらにより設立されたハルハウス(1889年)を始めとする多くのセツルメント建設が展開された。

そしてこの運動は、近代日本の社会運動にも影響を与えた。片山潜のキングスレー館(1897年)が最初期のものといわれ、その後に「隣保館」として全国的に展開した。主に、地方自治体により設立された隣保館や関東大震災後に設立された同潤会で建設された「善隣館」、帝大セツルメント、あるいは羽仁もと子らによる東北農村セツルメントとして展開した。それらはいずれも、相互扶助や共同的運用を基本としたコモンズの発

現による生活の向上を目指していたといつてよいだろう。

こうした活動のほとんどは、同時代の思想や実践上のリーダーであった新渡戸稲造や有島武郎らが目指したものと根底を同じくすると考えられる。周知のように、有島の農場解放による「狩太共生農団」、森本厚吉の建設した「文化アパートメント」、武者小路実篤が実践した「新しき村」などは、大雑把に括れば共同性という共通理念のもとで展開されたものである。たとえば、イギリスにおけるセツルメント運動の背景にジョン・ラスキンの存在があるが、有島によるラスキンの引用や、札幌農学校における逢坂らのセツルメントへの関心、森広と片山との密接な交流、『セツルメントの研究』を著した大林宗嗣がロバート・オウエンの影響を受けていたことを考え合わせれば、その流れの共通性がうかがえるだろう。

日本で実践されたセツルメント運動は、不良住宅改良(スラムクリアランス)、自治体系・宗教学系(キリスト教、仏教)・学校系・その他のセツルメント建設として多様に展開し、のちに公民館として定着していくこととなった。次世代の社会の、とりわけ「公」と「民」のあり方が模索される今日、既存の自治体の枠組みとは異なる次元での共同体形成に注目が集まっている。こうした観点に立てば、上述した歴史上の試行錯誤が残した知見は再評価されるべきもののように思われるのである。

付記

本稿は、科研費研究課題「近代日本のセツルメントハウスと公営住宅に関する史的研究―英・米の動向を参考として」(基盤(B)21H01521)の成果の一部に基づいている。

マレーシアの歴史と文化 ホーリーシン

「土香るラジオ文芸館」から一部抜粋
してお届けします。

今回はホーリーシンさんです
(2022年7月放送)

―はい、今月の「この人に聞く」
は、この方です。

📌みなさん、こんにちは。ニセ
コ町の国際交流員、ホーリー
シンです。

―私たちは「リリーさん」とお
呼びしていますが、本名はホー
リーシンさんなんですね。どう
して「リリー」というお名前を
使ってらっしゃるんですか。

📌はい、私は小さい頃保育所に
通っていたのですが、そのクラ
スが「リリー組」だったので、
家族が私をそう呼んでからずっ
とそのまま使っています。

―じゃあ、もし「クマさん組」
だったらどんなふうと呼ばれた

たんでしょうね(笑)

📌どうなってたんでしょうね

(笑)

―はい、それでは自己紹介をお
願いできますか？

📌2020年の10月に、ニセ
コ町に生まれました。出身地は、マ
レーシアの海沿いの小さな町ポ
ート・デイクソンです。ニセコ
町で2年ほどになりますが、冬
の厳しさにはまだ慣れていませ
ん。

―私たちでも、冬は大変な思い
をしますよ。さて、リリーさん
は日本語も流暢ですが、お国で
使ってらっしゃる言語はなんで
すか？

📌私の家庭では、英語です。友
達も英語が多いかな。小学校か
ら、公用語のマレー語のほか、
準公用語の英語と中国語も学び
ます。国全体では、マレー語が
もちろん多いけど、英語も中国
語も結構多いんです。

―すごいですね、小学校から三
カ国語を学ぶんですか！中国語

は中国系の人も多いからで
すか？

📌はい、そうです。私も中国語
も学んだのですが、あまり得意
ではないんです。言語だけにな
く、宗教も多様なんですよ。選
択は自由ですけど、中国人は仏
教、多くのマレーシア人はイス
ラム教ですが、ヒンズー教やキ
リスト教も多いです。なので、
宗教にちなんだ年中行事も多様
です。

―だけど、私の友人付き合いの中
で宗教の違いが話題になること
はほとんどありませんし、誰が
どんな宗教なのか普通はわから
ないのです。気にしてませんね。

―じゃあ、たとえばクリスマス
なんかも、クリスマス以外も
みんな普通に楽しむんですね。

📌はい、そうです。その点では
日本と似ているかもしれませんが
が、日本のように正月を特別視
するようなことはないです。む
しろ中国系の旧正月や、イスラ
ム系の断食のお祝いがとても盛

大です。

―日本と比べるとはるかに多様
な文化なんですね。そのような
マレーシアに育ったリリーさん
は、どのようなことで日本に來
るようになったのですか？

📌私は高校まではマレーシア
だったのですが、大学は大阪に
留学しました。多くの学生は、
マレーシアの大学ではなくて海
外に留学する人が多いのです。
アメリカとか日本とか。

―じゃあ、リリーさんが欧米で
なく日本を選んだのは、何故だ
ったのですか？

📌高校生で日本を訪れたとき、
日本の文化に興味を感じたんで
す。

―それは、日本のどんな文化だ
ったんですか？

📌そのときははっきりと自覚
してなかったけど、最近ニセコ
で暮らすようになってだんだん
それがはつきり感じられるよう
になったのですが、日本語の言
葉遣い”に感謝の気持ちが込め

られてるように感じて、それが日本の文化としてとても魅力を感じさせることに気がつきました。例えば、日本人は食事する時「いただきます」「ごちそうさま」って言いますよね。これは、食や自然の恵みへの感謝の気持ちの表れなんだろうと思うんです。きっと、子供の時から自然に学んできた心なんでしょうね。

—マレーシアでは、食事の文化が日本とは違うんですか。

「マレーシアでは、食や自然に対する感謝ではなく、一緒に食べる人、家族とか友人とかへの感謝の気持ちを伝え合いながら、楽しく食べるんです。だから、食事の文化は日本とマレーシアとではだいぶ違います。—文化については、まだまだいろいろなことについてお話を聞きたいのですが、ここで話題を変えたいと思います。実は、マレーシアというところは戦時中の日本による植民地支配のこと

をどうしても聞きたい気持ちが強いです。マレーシアは、さまざまな国から植民地支配を受けてきた歴史がありますが、日本による植民地支配については、どんなふうにも思っているんでしょう？」

「マレーシアは、戦前から戦後に至るまで、いろんな国の植民地支配を受けてきました。戦前はオランダ、イギリス、そして戦時中は日本、戦後は再びイギリスの植民地支配を受けて、独立国になったのは1957年です。日本の植民地支配のことを悪くいう人もいますがあまり多くなくて、むしろ現代の日本のイメージはともいいと受け止められているので、植民地支配についてはあまり触れられないんです。当時のことをいろいろ知っている人も、戦争のことについてはあまり話さないですね。—それは、戦時中の体験があまりに辛いと、それを話すことに耐えられないということがある

のかもしれないね。リリーさんのおじいさんから、そんな話を聞いたことはないですか？」

「私のおじいさんは広東語しか話さなかったの、子どもだった頃の私には、何を言っているのかわからなかったんです。—そうなんだね、家族でも世代が違うと言語が違うこともあるんですね。」

植民地支配から解放されてからのマレーシアに、世界的に有名な首相がいましたよね。

「はい、マハティールです。」

—そのマハティールさんが、確か「Look East」という政策を掲げていましたよね。それは、どういうことだったのですか？」

「「Look East」というのは、「日本に学ぶ」ということなんです。戦後飛躍的に成長した日本の経済や技術を吸収するため、日本に留学生を送り込みました。そんな日本への憧れもありました。その流れは、最近では日本文化への関心になっていきます。」

—日本の文化って、でも、どんな文化に関心が深まっているんですか？」

「そうですね、私の場合もそうですが、最近では、日本のアニメとか漫画とかですね。」

—えーっ、そうなんですか。そういういえば、メイさんもエマヌエルさんも同じようなことをおっしゃってましたけど、それって、いわゆるサブカルチャーですよね。」

「はい、でも日本文化といえば、私たちの世代にはそれがメインの文化なんです。」

—アニメとか漫画って、まさか「さざえさん」じゃないよね
(笑)

「「さざえさん」も英訳で読みましたよ(笑)あと、「ちびまる子ちゃん」とかも。」

—英訳で？(笑)。英語訳が出ているというのはいすごいなー!

「でも、私の場合は、最初に好きになったのは「犬夜叉」ですね。」

—それ、実は私は知らない作品
—なんだけど(笑)、僕らより詳し
いようですね。そんなアニメや
漫画は本屋さんで売ってるの？

—L 漫画を売っているのは、クワ
ラルンプルのような大きな都市
の大きな書店なんです。たとえ
ば紀伊國屋書店とか。私の住ん
でた小さな町の本屋さんには置
いてなかったですね。だから、
アニメはもちろんネットのオン
ラインで観ましたけど、漫画も
そうですね。

—なるほど、デジタル化進んで
ますものね。アニメや漫画がリ
リーさんにとっての日本文化の
代表になっていることは分かり
ましたが、他の文化、たとえば
文学、小説とかはどうなんです
か？日本の作家で、リーさん
が読んでいたものって、ありま
したか？

—L 大きな本屋さんでも、英訳さ
れた本が多いのです。日本語の
ままのものはほとんどなくて、
日本の作家のものも英訳された

ものが並んでいます。私は、ハ
ルキ・ムラカミとか、ケイゴ・
ヒガシノとかが好きで、よく読
みました。ハルキ・ムラカミだ
と、「1Q84」とか「海辺の
カフカ」とか「ノルウエーの森」
とかが好きでした。

—新しい時代の作家達ですね。
もっと古い、たとえば、夏目漱
石とか芥川龍之介とかは読まな
かったんですか？

—L 読んだんですけど、途中で先
に読み進まなくなっちゃって
(笑)

—なるほど、そうだよね(笑)
—じゃあ、いよいよ本題に切り込
みますけど、有島武郎は？
—L すみません、知りませんでし
た(笑)

—あーやっぱりね(笑) じゃ
あ、ニセコに来て初めて名前を
聞く作家だったわけですね。有
島記念館に行つて知ったとか？
—L はい、そうなんですけど、そ
の有島記念館に行つた時も、日
本中から英語交流をしに来る修

学旅行生と有島記念館とその周
辺で宝探しをするために有島記
念館にも行つたので、展示内容
などその時はほとんど観ること
ができなくて、まだきちんと勉
強できていないのです(笑)

—そうかあ、国際交流員の仕
事で行つたのなら、じっくり学
ぶ時間なかったよね。

—L これから時間を見つけて、有
島記念館で有島さんのこと、勉
強します。

—はい、ぜひ期待しています。
—リーさん、今日は素敵なお話、
ありがとうございます。

—リーさんとたくさん笑いを
交えて、いろんな話題がありま
した。またおしゃべりの機会が
あるといいですね。笑いたくな
ったら(笑)、ぜひ、スタジオに
遊びにいらしてください。

(※トークの一部を掲載しました。
聞き手はジガジーサンズです)

編集後記

同じ性や年齢に偏つた集団は脆い感じ
がしますが、土香の会もその例に漏れ
ません▲役員会も現在は高齢者が圧倒
的多数です。高齢者が多ければ機動性
や柔軟性に欠けることがあったり、会
員の参加意欲を促すアイデアを考える
のが億劫だったりする傾向は否めませ
ん。異なる世代が何を考えているのか
理解に苦しむことも出てきます。若い
世代との新陳代謝がなければ、年寄り
の知識や知恵を受け継いでもらうこと
も叶いません。早晚、会が成り立たな
くなることは必至です▲年2回発行す
る会報だけで十分との考えもあるでし
ようが、作り手がいなければ発行もま
まならず、また各種事業にも参加意欲
があまり湧かないとなると、残された
道は解散か自然消滅です▲そんな危機
を乗り越えてくれる人材の登場が待た
れてなりません。(井)

二〇二三年三月三十一日発行

発行 土香の会(事務局・春日井方)

二セコ町字富士見31-41

0136-44-2106

info@tsuchiikaoru-kai.org

あなたはどこにいきたいの？

もっと心の奥へ

もう一人の自分と逢いに

それがどんな相貌の

自分であっても

そのままを受け止めたいから

そこにいるあなたは独りなの？

いえ、

私ともうひとり

私ではない私

奪ってきた私

私が違いたかった異貌の私も

そこにいる

そんな私と、

私はやっと逢えた